カリキュラムガイドブック

2021年度

情報学科

2019年度以前入学者用

近畿大学理工学部

カリキュラムガイドブック目次

ΓI	害	恕	学	狱	
L	ΙĦ	ŦIX	一	77	

		ページ
(1)	近畿大学学園の「建学の精神」と「教育の目的」	1
(2)	理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像	1
(3)	カリキュラム・ディプロマポリシー	2
(4)	JABEE対応について	5
(5)	各学年別(入学年度別)カリキュラム表	
	平成31年度入学 科目表	10
	平成30年度入学 科目表	16
	平成29年度入学 科目表	22
	プログラミング系基礎科目の単位認定	28
	健康スポーツ教育について	29
	カリキュラムツリー	34
(6)	学習支援室案内	36
(7)	中央図書館案内	37
(8)	転コースに関わる案内	38

近畿大学学園の「建学の精神」と「教育の目的」

近畿大学学園の建学の精神は、「実学教育」と「人格の陶冶」です。この建学の精神を具体的に実践するために「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育目的に掲げています。

この建学精神と教育理念に基づいて、「広い教養に裏打ちされた人格とチャレンジ精神をもって未来を志向しつつ、実践的学問すなわち実学の発展に貢献することのできる人材を育成」して、社会に送り出すことに全力で取り組んでいます。

本学の各学部・大学院及び各学校は、それぞれの人材育成目標にそって、特色あるカリキュラムを用意し、充実した教授陣が、質の高い教育を提供しております。

学生の皆さんには、上記の建学精神と教育理念を理解していただき、本学園で、本当に優れた友人・先輩・教員や夢中になれる学問に出会い、美しいものに打たれ、豊かな教養と専門的知識を身につけ、各人固有の才能を見出し、自分に最も相応しい将来設計をされることを願っております。

理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像

理工学部では、「学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけ、自律的に考え、判断し、課題解決のために行動・ チャレンジできる教養豊かで創造性に富む人材を育成する」ことを教育理念・目標にしています。

様々な角度から物事をみることができる能力や自主的に考え、的確に判断する能力、豊かな人間性を有する人材を育てるという教育の理念・目標の実現のため、一年生に創成科目として「基礎ゼミ」を設け、これには学科の全教員が教育に当たり、自ら学ぶ動機付けを与えると共に、自律的に考え、課題を探求し、解決するための基礎となる素養を身につけてもらいます。

今、大学教育では教室における授業だけではなく、授業の前提として読んでおくべき文献の提示や宿題を課すなど学生諸君が事前に行う準備学習・復習についても指示を与えるとともに、学生と教員との対話型授業(学生参加型授業)が求められています。そこで、理工学部では、教員からの一方通行の講義ではなくて、学生に問題を与え、学生が自ら調べ、考えたことを報告させ、「知識の修得」と「社会人基礎力の養成」が一体となった授業を推進しております。

理工学部の教育理念・目的を具体化するために、以下の到達目標を設定しています。

- 1. 教員は学生と真剣に向き合い、学生参加型授業を推進し、「知識の修得」と「社会人基礎力の養成」が一体となった授業の実践に努力する。
- 2. 卒業時における学生の質を保証し、就職などの出口での成果の向上を一層図ると共に教員による出口支援を強化する。
- 3. 国際的資格である JABEE 認定を受けている工学系の 6 学科では JABEE プログラムを積極的、かつ継続的に遂行し、世界に通用する人材を育成する。
- 4. 理工学部の教員養成カリキュラムを一層強化し、毎年 50 名以上の教員採用試験合格者を目指す。
- 5. 理工学部内に競争的環境を創出し、「知の創造」と「役に立つ」といういずれかの尺度で見て、 国内外に大きなインパクトを与える研究成果を発信する。
- 6. 以上の到達目標の実現に努力し、社会で大いに活躍できる有能な人材を育成し、理工学部の ブランドカの一層の向上を図る。

【ディプロマポリシー】(学位授与の方針)

情報学科では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、単なる知識の詰め込みではなく、自主性や社会性、専門的知識、デザイン能力、問題解決能力などの社会に必要とされる能力に加えて、国際コミュニケーション能力を有したグローバル人材の育成を教育の目標としています。情報学科において、所属するコースで開講された科目を履修し、所定の単位を修得し、下記の項目を身につけた学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。卒業した学生が有する資質・能力を以下に示します。

- 1. 関心・意欲・態度
- 1.1 問題発見、およびそれに必要な知識修得を自主的、継続的に行う意欲を持つこと。
- 1.2 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者がそれらに対して負う責任を理解し、関心を持つこと。
- 2. 思考·判断
- 2.1 地球的視点から多面的に物事を考える能力と素養を身につけること。
- 2.2 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を身につけていること。
- 2.3 他人との共同、協調作業を通して問題解決ができること。
- 3. 技能·表現
- 3.1 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を身につけていること。
- 3.2 国際的に通用する英語コミュニケーション能力を身につけていること。
- 4. 知識·理解
- 4.1 数学、自然科学に関する知識を情報分野の問題に応用できる能力を身につけていること。
- 4.2 情報分野における幅広い専門技術の知識とそれらを問題解決に応用できる能力を身に つけていること。
- 4.3 システム分析、設計、プログラミング能力を身につけていること。

【カリキュラムポリシー】(教育課程編成・実施の方針)

情報学科では、学科の教育理念である、自主性や社会性、専門的な知識、デザイン能力、問題解決能力、国際コミュニケーション能力などを有した人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーに掲げられている学生が身につける資質・能力に対応させた到達目標を設定し、それぞれの目標達成に適した科目を配置するカリキュラムを構成しています。

〈共通教養科目〉

情報学科では、ディプロマ・ポリシーの項目1.1、2.3、3.1の能力を育成するため、 課題設定・問題解決科目群という教育プログラムを開講しています。課題設定・問題解決科 目群では、少人数で行うゼミナールを通じて、広い視野に立った問題発見への意欲と、問題 解決に必要な知識の修得への意欲を継続的に持たせることを目的とし、「得られた知識をレ ポートにまとめる(1.1)」、「グループのメンバーと協調しながら与えられた課題を解決する(2.3)」、「考案した方策を口頭で発表し、質疑に対して適切に応じる(3.1)」、「文化としての日本語の奥深さや、音声表現の技法を習得する(3.1)という学修目標を設定しています。これらを主体的に学ぶことで項目1.1、2.3、3.1の能力が身につきます。また、項目1.2の能力を育成するため、人間性・社会性科目群という教育プログラムを開講しています。この科目群では、これからの科学技術者の在り方、基本として持つべき科学技術倫理観を養うことを目的とし、「科学技術者として必要な倫理を知る」、「品質問題、環境問題、安全問題と情報問題と技術者倫理の関係を知る」、「知的財産権、リスク問題の対処法を知る」という学修目標を設定しています。これらを主体的に学ぶことで1.2の能力が身につきます。

さらに、項目 2.1 の能力を育成するため、地域性・国際性科目群という教育プログラムを 開講しています。この科目群では、地球的視点から、人類や環境が直面している様々な問題 について認識を深めさせ、技術者という立場から問題解決への意欲を持たせることを目的 とし、「多種多様の価値観に触れることで視野を拡げるとともに、グローバル化された社会 における問題解決のための最良の手段が幅広い知識の獲得とそれに基づく言語化能力の向 上にあることを理解する」学修目標を設定しています。これらを主体的に学ぶことで 2.1 の能力が身につきます。

〈外国語科目群〉

情報学科では、ディプロマ・ポリシーの項目3.2の能力を育成するため、外国語科目群という教育プログラムを開講しています。この科目群では、国際社会で活躍できる情報技術者になるための様々な英語教育手法を提供し、人間・文化などとの関わりを多面的な視点から理解ができる能力を身につけさせることを目的とし、「日常生活についての様々な事項に関する文章を読み、語彙を修得し、またそれをもとにまとまった文章を書いて発表できるようになる」学修目標を設定しています。これらを主体的に学ぶことで3.2の能力が身につきます。

〈専門基礎科目群〉

情報学科では、ディプロマ・ポリシーの項目 4.1 の能力を育成するため、専門基礎科目群という教育プログラムを開講しています。この科目群では、離散数学、確率と統計を含む数学、ならびに自然科学に関する知識を修得させることを目的とし、「ベクトル、行列、微分積分、確率の基本的な計算ができるようになる」学修目標を設定しています。これらを主体的に学ぶことで 4.1 の能力が身につきます。

〈専門科目群〉

情報学科では、ディプロマ・ポリシーの項目 4.2 の能力を育成するために、専門科目群という教育プログラムを開講しています。この科目群では、コンピュータシステムやネットワークの原理ならびにプログラミングに対する基礎知識を修得し、それらを現実的な問題の解決に応用できることを目的とし、「基本的なコンピュータシステムの構成とソフトウェ

アの知識を活用して、情報メディア、情報システムにおける諸問題を解決できるようになる」 学修目標を設定しています。これらを主体的に学ぶことで4.2の能力が身につきます。

また、項目 2.2、4.3の能力を育成するために、実習科目群をという教育プログラムを開講しています。この科目群では、情報システム、または、情報メディアに関するソフトウェアを対象としてプロジェクト実習を通じて開発させることで、分析、設計、プログラミング能力を身につけさせることを目的とし、「プログラミングに関する基本的な知識・技術を活用して、より実用的な問題を解決できるプログラムを作成できる能力を獲得する」学修目標を設定しています。これらを主体的に学ぶことで 2.2、4.3の両方の能力が身につきます。

情報学科の JABEE 対応について

I はじめに

近畿大学理工学部情報学科では、社会の要求に応える質の高い技術者の育成を目指しています。その一環として、日本技術者教育認定機構(JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education)に認定された「情報システムコース」プログラムを用意し、JABEE の認定基準を満足する学生の教育を実践しています。「情報メディアコース」についても、情報学科の学習・教育目標に基づき、「情報システムコース」プログラムと同様に、全卒業生の情報技術者としての水準を保証するよう努めています。

II JABEE の概要

はじめに、JABEEの概要および JABEE 認定プログラムについて説明します。「理工学部履修要項」および「情報学科授業計画(シラバス)」とともに、授業科目の履修、プログラムの修了に関して重要な内容をまとめています。熟読して、十分理解してください。 JABEE に関する詳細な情報は、JABEE のホームページを参照してください。また、「情報システムコース」プログラムの最新情報は、情報学科のホームページを参照してください。

JABEE ホームページ: http://www.jabee.org/

情報学科ホームページ: http://www.kindai.ac.jp/sci/department/informatics/

1) JABEE とは

JABEE は、技術系学協会と密接に連携しながら、日本技術者教育認定制度にもとづいて技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体です。日本技術者教育認定制度とは、大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを外部機関が公平かつ客観的に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定(Professional Accreditation)制度です。

2) JABEE 認定プログラムと JABEE 認定プログラム修了生

JABEE では、高等教育機関において技術者の教育を行っているプログラムを認定するために日本技術者教育認定基準を定めています。JABEE による審査の結果、そのプログラムが認定基準を満たしていると認められた場合、そのプログラムは JABEE 認定プログラム、そのプログラムの修了生(卒業生)は JABEE 認定プログラム修了生であると認定されます。JABEE 認定プログラム修了生は「修習技術者」となり、技術士第一次試験(国家試験)が免除されます。修習技術者には、技術士法により「技術士補」として登録する資格も与えられます。また、必要な経験を積んだ後、技術士第二次試験を受験することができます。技術士第二次試験合格後、技術士登録をすることで、優れた技術者であることが国によって認められた「技術士」の資格を得ることができます。さらに、JABEE はソウル協定と呼ばれる国際的な技術者教育の相互承認を行う協定に加盟していますので、JABEE 認定プログラム修了生は、アメリカ、イギリス、カナダなど欧米主要国の認定プログラムの修了生と同様に評価され、国内外において活動の場を広げることができます。このように、JABEE 認定プログラム修了生は、質の高い教育を受けたことが客

観的に証明されているため、就職や進学に際して、有利な評価が受けられるものと考えられます。

3) 情報学科の取り組み

JABEE 認定プログラムには、単なる知識の詰め込みではなく、自主性や社会性、専門的な知識、デザイン能力、問題解決能力、国際コミュニケーション能力などを有した人材を育成することが要求されています。また、学生の学習時間を保証することや、学習・教育目標の達成度の評価方法や評価基準を明確に設定し、それに従って成績の厳密な評価を行うことなども要求されています。さらに、プログラムを定期的に点検・評価し、教育内容や教育方法などを改善していく仕組みを作り、機能させることも要求されています。

情報学科は、平成 14 年度から、JABEE の定めた基準に準拠した教育の実践を開始し、継続的な教育改善を進めてきました。平成 17 年度には学外の有識者による外部評価も導入し、更なる教育改善を進め、平成 18 年 4 月には JABEE に対して「情報システムコース」プログラムの認定申請を行いました。11 月には実地審査を受け、平成 19 年 5 月に「情報システムコース」プログラムが JABEE プログラムに認定されました。この結果、プログラムの修了要件を満たした平成 18 年度以降の情報システムコース卒業生は JABEE 認定プログラム修了生となり、先に説明した「修習技術者」(技術士補となる資格)の称号が与えられます。

Ⅲ JABEE 認定基準について

1) JABEE 認定基準

JABEE 認定基準では、修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として、「共通基準」の基準 1 (2),並びに「個別基準」の情報専門系学士課程プログラム・CS(コンピュータ科学)分野において、下記の要件 (a) \sim (i) を定めています。

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養。
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する 理解。
- (c) 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力。
- (d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力。
 - (d-1) コンピュータを用いたシステムのモデル化及び設計に、数学的な基礎、アルゴリズムの諸原理及び情報科学の諸理論を応用する能力。
 - (d-2) 様々な複雑性を有するソフトウェアシステムの構築に、設計や開発の諸原理を応用する能力。
- (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力。
- (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力。
- (g) 自主的、継続的に学習する能力。
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力。
- (i)チームで仕事をするための能力。

Ⅳ 「情報システムコース」プログラムについて

1) 学習・教育到達目標

「情報システムコース」プログラムでは、上記の JABEE 認定基準および「情報学科の教育理念と目的」に資する人材を育成するために、以下に示す (A) \sim (G) の項目からなる学習・教育到達目標を設定しています。

「情報システムコース」プログラムの学習教育目標

制定 2003/04/01 改定 2006/12/07 改定 2009/01/08 改定 2011/05/12 改定 2012/09/20 改定 2015/12/03 改定 2019/02/07

- (A) 広い視野に立った問題発見への意欲と、問題解決に必要な知識の習得への意欲を継続的 に持つことができる。
- (A1) 社会の変化に伴い生じるさまざまな問題を発見する意欲を持つ必要性を理解し、自身が 定めたテーマに関する情報を長期にわたって収集、分析することができる。
- (A2) 自身の直面している課題を解決するための知識を継続的に習得する意欲を持ち、一定の テーマに関する情報を長期にわたって収集、分析することができる。
- (B) 地球的視点から、人類や環境が直面している様々な問題について認識を深め、技術者という立場から問題解決への意欲を持つことができる。
- (B1) 情報処理技術と人間、社会、文化、福祉、環境の関わりを多面的に理解し、情報処理技術の発展が社会や環境に及ぼす影響や効果に関して深く洞察することができる。
- (B2) 技術者が備えるべき社会性や倫理観を修得するとともに、情報セキュリティに対する責任を理解する。さらに、これらの理解と理性に基づいて自主的に行動することができる。
- (C) 離散数学、確率と統計を含む数学、ならびに自然科学に関する知識を習得し、それらを 計算機科学に関する諸知識の理解と、情報システムの開発に活用することができる。
- (C1) 線形代数と微積分に関する基礎知識を修得し、計算機科学に関する諸知識の理解と、情報システムの開発に活用することができる。
- (C2) 自然科学に関する基礎知識を修得し、自然界に存在するシステムの理解とモデル化に活用することができる。
- (C3) 離散数学に関する基礎知識を修得し、計算機科学に関する諸知識の理解に活用することができる。
- (C4) 確率と統計に関する基礎知識を修得し、計算機科学に関する諸知識の理解に活用することができる。

- (D) 計算機システムや計算機ネットワークの原理ならびにプログラミングに対する基礎知識 を習得し、それらを現実的な問題の解決に応用することができる。
- (D1) 計算機システムのハードウェアとソフトウェアに関する基礎知識を修得し、情報システムの開発に応用することができる。
- (D2) 計算機ネットワークに関する基礎知識を修得し、情報システムの開発に応用することができる。
- (D3) プログラミングに関する基礎知識を修得し、情報システムの開発に応用することができる。
- (D4) 情報リテラシーに関する知識と技術を修得し、情報システムの開発における情報収集、 意見交換、文書作成に活用することができる。
- (E) ソフトウェアの開発における課題を理解、分析し、課題に対する適切な解を与えることができる。
- (E1) ソフトウェアの設計に関する基礎知識を修得し、必ずしも解が一意ではない要求に対して、問題分析、モデル化、要件定義を経て、要求や制約条件を満足する情報システムの仕様を策定することができる。
- (E2) 仕様を満足する情報システムの実装に、プログラミングに関する各種の知識を活用する ことができる。
- (E3) 仕様を満足する情報システムを要求された期限内に完成できるように、計画を立案し、 それに従って作業を遂行することができる。
- (F) 情報処理技術の工学諸分野と社会システムへの応用に関する知識を習得し、情報処理技術を情報システムの開発に多面的に適用することができる。
- (F1) データベースに関する基礎知識を修得し、情報システムの開発に適用することができる。
- (F2) 人工的な知能に関する基礎知識を修得し、情報システムの開発に適用することができる。
- (F3) メディアからの情報の取得、および、メディアへの情報の提供を実現する情報技術に関する基礎知識を修得し、情報システムの開発に適用することができる。
- (G) 現実の諸問題に他と協調して対処できる日本語のコミュニケーション能力を習得し、課題の理解、解決に有効に活用することができる。また、技術英語に対する理解力を持ち、英語によって情報を取得し、伝達することができる。
- (G1) 把握した問題点やそれを解決するために考案した方策を文書や図表を使って適切に説明 することができる。
- (G2) 把握した問題点やそれを解決するために考案した方策を口頭で発表し、質疑に対しても 適切に対応することができる。
- (G3) 与えられた課題をグループのメンバーと協調しながら積極的に解決することができる。
- (G4) 少なくとも辞書を利用すれば英語文書を読解でき、口頭やメールによる意思や情報の伝達を英語で行うことができる。

上記の学習・教育到達目標の項目と JABEE 認定基準の要件との対応を表1に示します。

(d) (a) (b) (c) (e) (f) (i) (g) (h) (1)(2)(A) \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc 0 (B) (C) \bigcirc \bigcirc \bigcirc (D) \bigcirc \bigcirc \bigcirc (E) \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc (F) \bigcirc \bigcirc \bigcirc

0

0

表1:「情報システムコース」プログラムの学習・教育到達目標とJABEE認定基準との対応

2) 修了要件:学習・教育到達目標の達成度評価

(G)

学習・教育到達目標の達成度を評価するため、その各項目と授業科目を対応付けた修了要件が設定されています。すなわち、学習・教育到達目標の大項目(たとえば(A))を中項目(たとえば(A1)(A2))に分け、これらの中項目に授業科目を割り当てています。ここで、修了要件で指定された通りに授業科目を習得することで、学習・教育到達目標が達成される仕組みになっています。したがって、修了要件を満足することでプログラム修了生となります。修了要件は入学年度によって少しずつ内容が異なります。自分に該当する修了要件を履修要項で確認し、指定された通りに授業科目を修得してください。各授業科目の達成度評価については、情報学科授業計画(シラバス)を参照してください。JABEEは情報システムコースの全卒業生が修了要件を達成することを要求しています。学生諸君の努力を期待します。

^{「◎」}は主体的に関与することを示す。「○」は副次的に関与することを示す。

学部共通 (共通教養科目)科目表

[]:いずれかのセメスターで開講される。

():いずれかのセメスターで受講できる。

					履修学生	F、期別、	セメスター	かのセメスター -	
	授業科目	単 位		学年	2	学年	3等	华年	-
	32.KTTF	数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	備考
			1	2	3	4	5	6	
-	自校学習	1	•						B1
-	人権と社会1	2			(●)	(●)			B1
-	人権と社会2	2				•			B1
人間	暮らしのなかの憲法	2			(●)	(●)			B1
性・	住みよい社会と福祉	2			(●)	(●)			B1
社会性	現代社会と法	2	•						B1
科	環境と社会	2	•						B1
目群	資源とエネルギー	2			(0)	(0)			B2
	技術と倫理	2		0					B2
	企業倫理と知的財産	2						0	B2
	教養特殊講義A	2	(0)	(0)					
地	国際経済と企業の国際化	2	•						В1
域性	国際化と異文化理解	2		•					В1
玉	国際社会と日本	2	•						В1
際性	ビジネスモデルとマネジメント	2		•					В1
科目	メディアの読み方	2					•		В1
群	教養特殊講義B	2	(0)	(0)					
	日本語の技法	2	•						B1
課題	基礎ゼミ1	2	©						A1, G1,G2
題設定	基礎ゼミ2	2		0					A1, G1,G2
問問	キャリアデザイン	2					0		B2
題解	科学的問題解決法	2					(()	(()	B2
決科	プレゼンテーション技術	2						•	B1
目群	情報処理基礎	1	0						D4
	教養特殊講義C	2	(0)	(0)					
スポー	生涯スポーツ1	1	•						B1
ッ・	生涯スポーツ2	1		•					B1
表現活動	健康とスポーツの科学	2	•						B1
動科目群	食生活と健康	2	•						B1
備考				◎:必修 ●:選択 ○:選択	必修科目				

学部共通 (外国語科目)科目表

◎は必修科目、●印は選択必修科目、○印は選択科目、△印は自由選択科目を示す。

								当たりの			日田選択科目を不	
	単	必修、		年		年		年		经年		履修
授業科目	位数	選択の						後期			備考	状
	奴	20:3	1	2	3	4	5	6	7	8		況
[外国語科目](英語)												
英語演習 1	2	0	4								G4	
英語演習 2	2	0		4							G4	
TOEIC1	1	0			2						G4	
TOEIC2	1	0				2					G4	
ライティング 1	1	•					2				G4	
ライティング 2	1	•						2			G4	
科学技術英語 1	1	•					2				* G4	
科学技術英語 2	1	•						2			* G4	
オーラルイングリッシュ 1	1	0	2								G4	
オーラルイングリッシュ 2	1	0		2							G4	
オーラルイングリッシュ 3	1	•			2						G4	
オーラルイングリッシュ 4	1	•				2					G4	
アカデミックリーディング 1	1	0			2						G4	
アカデミックリーディング 2	1	0				2					G4	
海外語学研修(英語)	2	0	_	_	_	_	_	_	_	_	G4	
〔外国語科目〕(第二)												-
ドイツ語総合1	1	0	2								B1	
ドイツ語総合2	1	0		2							B1	
ドイツ語総合3	1	0			2						B1	
ドイツ語総合 4	1	0				2					B1	
フランス語総合 1	1	\circ	2								B1	
フランス語総合 2	1	0		2							B1	
フランス語総合 3	1	0			2						B1	
フランス語総合 4	1	0				2					B1	
中国語総合1	1	0	2								B1	
中国語総合2	1	0		2							B1	
中国語総合3	1	0			2						B1	
中国語総合4	1	0				2					B1	
海外語学研修(中国語)	2	0	_		_	_	—		_		B1	
韓国語総合1	1	0	2								B1	
韓国語総合 2	1	0		2							B1	
韓国語総合3	1	0			2						B1	
韓国語総合 4	1	0				2					B1	
海外語学研修(韓国語)	2	0	_	_	_	_	_		_	_	B1	
ロン/マ部1	1	\triangle	2									
ロシア語 1												

注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。

^{2.} 選択必修科目は、「ライティング1」「ライティング2」「科学技術英語1」「科学技術英語2」の4科目から1単位、「オーラルイングリッシュ3」「オーラルイングリッシュ4」の2科目から1単位を修得のこと。

^{3. 4}年進級時に第二外国語科目群から2単位以上修得していなければならない。

情報学科 (基礎科目、専門科目)科目表

【情報システムコース】 ◎印は必修科目、●印は選択必修科目、○印は選択科目、△印は自由選択科目を示す。 履修学年、期別、セメスターと1週当たりの授業時間数 履 単 必修、 1学年 2学年 3学年 4学年 修 授 業 科 目 位 選択の 備 考 状 前期後期 前期 後期 前期後期 前期 後期 別 数 況 3 2 4 5 6 7 8 [基礎科目] 3 基礎物理学および演習 4 **※**1, C2 3 物理学および演習 4 **※**1, C2 物理学概論および演習 I 3 **※**2, C2 4 3 **※**2, 物理学概論および演習Ⅱ 4 C2基礎化学および演習 3 C2 4 2 化学 2 C2 基礎生物学 2 C2 2 C2 生物学 2 微分積分学 I 2 0 2 C1 2 微分積分学Ⅱ (0) 2 C1 2 線形代数学 I 0 С1 2 線形代数学Ⅱ C1 0 2 \bigcirc 情報処理実習I 1 [2] [2] D3 情報処理実習Ⅱ 1 \bigcirc [2] [2] D3 1 [2] DЗ 情報処理演習 [2] \bigcirc インターンシップ 2 \bigcirc В2 \bigcirc 社会奉仕実習 1 B2 情報システム基礎 2 Δ 4 情報システム応用 2 \triangle 4 [専門科目] 情報実習 I 2 0 4 D4 2 コンピュータ基礎 I \bigcirc 2 D1. D3 情報実習Ⅱ 2 0 4 D3 コンピュータ基礎Ⅱ 2 0 2 D1, D3 2 オブジェクト指向設計 0 2 E1 プログラミング実習 I 3 (0) 6 Д3 情報数学 2 (0) 2 С3 確率統計 I 2 0 2 C4

2

2

2

2

2

6

2

2

2

2

2

D2

D3

СЗ

С3

E2

D1

D1

C4

D2

D3

С3

2

2

2

2

3

2

2

2

2

2

2

0

0

 \bigcirc

 \bigcirc

0

0

0

 \bigcirc

 \bigcirc

 \bigcirc

 \bigcirc

ネットワーク技術 I

プログラミング実習Ⅱ

ネットワーク技術Ⅱ

コンピュータアーキテクチャ

オペレーティングシステム

データ構造とアルゴリズムⅡ

言語理論とオートマトン

数值計算法

確率統計Ⅱ

論理回路

データ構造とアルゴリズム I

注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す、6は1週に3時限(270分)を示す。

^{2.[]:}いずれかのセメスターで開講される。

^{3.} 一: は履修の対象となるセメスターを示す。

^{4. ※1}の科目を履修登録すると以降は※2の科目を履修できない。

^{5. ※2}の科目を履修登録すると以降は※1の科目を履修できない。

^{6. ※1}と※2の科目はプレイスメントテストによるクラス分けを行う。

◎印は必修科目、▲▼◆■印はそれぞれF1,F2,F3,B1科目群に属する選択必修科目、○印は選択科目、○印は自由選択科目を示す。

【情報システムコース】

【情報システムコース】	択科	目、△印	」は自由	選択科	目を示	す。						
			履修	学年、	期別、セ	ノメスター	-と1週	当たりの	授業時	間数		履
授業科目	単位	必修、	1学	年	2学	年	3学	年	4学	年	備考	修
文 未 村 日		選択の 別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	1佣 石	状
	25/		1	2	3	4	5	6	7	8		況
数理論理学	2	\circ				2					C3	
情報システムプロジェクトI	2	0					4				E1, E2	
暗号と情報セキュリティ	2	0						2			D2	
データベース論 I	2	A						2			F1	
エージェント工学	2	▼					2				F2	
自然言語処理	2	▼					2				F2	
画像処理	2	♦					2				F3	
パターン認識	2	♦					2				F3	
数理計画法	2	0					2				C1, E1	
情報理論	2	\circ					2				C4	
コンパイラ	2	0					2				D1	
プログラミング言語学	2	\circ					2				D3	
情報システムプロジェクトⅡ	2	0						4			E1-3, G1-3	
卒業研究ゼミナール	1	0						2			A2, G2	
データベース論Ⅱ	2	A						2			F1	
人工知能	2	▼					2				F2	
コンピュータグラフィックス	2	•						2			F3	
計算論	2	0						2			C3	
リアルタイムシステム	2	0						2			D1	
分散システム	2	0						2			D2	
符号理論	2	0						2			D2	
ソフトウエアプロセス	2	0					2				E1, E3	
情報と社会	2							2			B1	
情報と職業	2								2		B1	
卒業研究	8	0							_		A2, G1, G2	
教科教育演習	1	0			2						B2, 集中講義	
ネットワーク演習I	2	Δ					[4]	[4]			*1	
ネットワーク演習Ⅱ	2	Δ					[4]	[4]			*1,集中講義	
ネットワーク演習Ⅲ	2	Δ					[4]	[4]			*1	
職業指導	4	Δ										
エンジニアリングデザイン実習	12	Δ										
国際プロジェクトマネジメント実習	12	Δ										
理工国際ゼミナール	8	Δ										

- 注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。
 - 2. 一: は履修の対象となるセメスターを示す。
 - 3. []:のいずれかのセメスターで開講される。
 - 4. 本コース以外の科目を履修し単位を取得した場合は、最大12単位までを専門選択科目の進級・卒業所要単位として認める。
 - 5. *1のネットワーク演習I、ネットワーク演習II、ネットワーク演習IIIの受講に関しては受講資格が必要。受講資格の詳細は別途案内する。
 - 6. 集中講義の実施時期については掲示する。
 - 7. 「教科教育演習」は、一度単位を取得した学生の聴講を認める。(成績は変更できません)

◎印は必修科目、●印は選択必修科目)、▲▼印はそれぞれa,b科目群に属する選択必修科目、○印は選択科目、△印は自由選択科目を示す。

【情報メディアコース】		は必修科 ○印は選							ぞれa,	b科日郡	¥に属するi	選択必	修科
									授業時	間数			履
122 VL 17 F	単位	必修、	1学	华年	2学	年	3学	年	4学	年	/:#t:	- 1 √.	修
授業科目		選択の 別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	備	考	状
			1	2	3	4	5	6	7	8			況
[基礎科目]								ı					
基礎物理学および演習	3	•	4								※ 1		
物理学および演習	3	•		4							※ 1		
物理学概論および演習 I	3	•	4								※ 2		
物理学概論および演習Ⅱ	3	•		4							※ 2		<u> </u>
基礎化学および演習	3	•	4								=		
化学	2	•		2									
基礎生物学	2	•	2										
生物学	2	•		2									
微分積分学 I	2	0	2										
微分積分学Ⅱ	2	0		2									
線形代数学 I	2	0	2]		
線形代数学Ⅱ	2	0		2									
情報処理実習 I	1	\circ	[2]	[2]									
情報処理実習Ⅱ	1	0		[2]	[2]								
情報処理演習	1	\circ			[2]	[2]							
インターンシップ	2	\circ	_	_	_	_	_	_	_	_			
社会奉仕実習	1	\circ	_	_	_	_	_	_	_	_			
情報システム基礎	2	\triangle	4										
情報システム応用	2	\triangle		4									
〔専門科目〕													
情報実習I	2	0	4										
コンピュータ基礎 I	2	0	2										
情報実習Ⅱ	2	0		4									
コンピュータ基礎Ⅱ	2	0		2									
オブジェクト指向設計	2	0		2									
プログラミング実習 I	3	0			6								
情報数学	2	0			2								
確率統計 I	2	0			2								
ネットワーク技術 I	2	0			2								
データ構造とアルゴリズム I	2	0			2								
数値計算法	2	A			2						а		
コミュニケーション論	2	▼			2						b		
プログラミング実習Ⅱ	3	0				6					1		
確率統計Ⅱ	2	0	1			2					1		
数理論理学	2	A	1			2					a		
言語理論とオートマトン	2	▼			2						b		
ネットワーク技術Ⅱ	2	0				2					1		
データ構造とアルゴリズムⅡ	2	0				2					1		
認知科学	2	0				2					1		
画像システム	2	0				2					1		
ディジタル信号処理	2	0			2						1		

- 注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。
 - 2.[]:はいずれかのセメスターで開講される。
 - 3. 一: は履修の対象となるセメスターを示す。
 - 4. ※1の科目を履修登録すると以降は※2の科目を履修できない。
 - 5. ※2の科目を履修登録すると以降は※1の科目を履修できない。
 - 6. ※1と※2の科目はプレイスメントテストによるクラス分けを行う。

【情報メディアコース】

◎印は必修科目、▲▼◆印はそれぞれa,b,c科目群に属する選択必修科目、○印は選択科目、 △印は自由選択科目を示す。

			□ 1.6	- 337								
	224							当たりの	授業時	間数		履
授業科目	単 位	必修、 選択の	1学	年	2学	年	3学	年	4学	年	備考	修
1文 未 行 日		選択の別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	1佣 45	状
	//		1	2	3	4	5	6	7	8		況
情報メディアプロジェクトI	2	0					4					
暗号と情報セキュリティ	2	0						2				
パターン認識	2	0					2					
数理計画法	2	A					2				a	
自然言語処理	2	▼					2				b	
画像認識	2	•					2				С	
情報理論	2	0					2					
通信工学	2	0					2					
エージェント工学	2	0					2					
Webアプリケーション	2	0					2					
知能ロボット	2	0					2					
情報メディアプロジェクトⅡ	2	0						4				
卒業研究ゼミナール	1	0						2				
音声認識	2	•						2			c	
機械学習	2	•						2			С	
色彩工学	2	0					2					
HCI	2	0						2				
人工知能	2	0					2					
感性工学	2	0						2				
コンピュータグラフィックス	2	0						2				
センサシステム	2	0						2				
社会心理学	2	0						2				
情報と社会	2	0						2				
情報と職業	2	0							2			
卒業研究	8	0							_	_		
教科教育演習	1	0			2						集中講義	
職業指導	4	Δ										
エンジニアリングデザイン実習	12	Δ										
国際プロジェクトマネジメント実習	12	Δ										
理工国際ゼミナール	8	Δ										

- 注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。
 - 2. 一: は履修の対象となるセメスターを示す。
 - 3.[]:はいずれかのセメスターで開講される。
 - 4. 本コース以外の科目を履修し単位を取得した場合は、最大12単位までを専門選択科目の進級・卒業所要単位として認める。
 - 5. 集中講義の実施時期については掲示する。
 - 6. 「教科教育演習」は、一度単位を取得した学生の聴講を認める。(成績は変更できません)

学部共通 (共通教養科目)科目表

[]:いずれかのセメスターで開講される。

():いずれかのセメスターで受講でき	る。
--------------------	----

					园 炉 ツ *	e Hann			ーで受講できる。
		単	- X	÷/=:			セメスター		
	授業科目	位	前期	学年 後期	前期	学年 後期	前期	学年 後期	備考
		数	1	2	3	4	5	6	- HVH
	自校学習	1	•						B1
ŀ	人権と社会1	2			(●)	(●)			B1
-	人権と社会2	2				•			B1
人間	暮らしのなかの憲法	2			[●]	(●)			B1
性・	住みよい社会と福祉	2			(●)	[●]			B1
社会性	現代社会と法	2	•						B1
性科	環境と社会	2	•						B1
目群	資源とエネルギー	2			(0)	(0)			B2
	技術と倫理	2		0					B2
•	企業倫理と知的財産	2						0	B2
•	教養特殊講義A	2	(0)	[0]					
地	国際経済と企業の国際化	2	•						В1
域性	国際化と異文化理解	2		•					B1
• 国	国際社会と日本	2	•						В1
際性科	ビジネスモデルとマネジメント	2		•					В1
目	メディアの読み方	2					•		В1
群	教養特殊講義B	2	(0)	(0)					
	日本語の技法	2	•						В1
課題	基礎ゼミ1	2	0						A1, G1,G2
題設定	基礎ゼミ2	2		0					A1, G1,G2
問問	キャリアデザイン	2					0		B2
題解	科学的問題解決法	2					(0)	(()	B2
決科日	プレゼンテーション技術	2						•	B1
目群	情報処理基礎	1	0						D4
	教養特殊講義C	2	[0]	(0)					
スポー	生涯スポーツ1	1	•						B1
ツ・表	生涯スポーツ2	1		•					B1
表現活動科目群	健康とスポーツの科学	2	•						В1
科目群	食生活と健康	2	•						В1
備		_		◎:必修	科目				
考				●:選択 ○:選択	必修科目 科目				

学部共通 (外国語科目)科目表

◎は必修科目、●印は選択必修科目、○印は選択科目、△印は自由選択科目を示す。

授業科目	単	必修、	11212	4 1 1 /	閉別、セ							冠
授業科目		业1/6、	1学	:年	2学	年	3学	年		华年		履修
l l	位数	選択の				後期					備考	状
	奴	נינג	1	2	3	4	5	6	7	8		況
[外国語科目](英語)												
英語演習 1	2	0	4								G4	
英語演習 2	2	0		4							G4	
TOEIC1	1	0			2						G4	
TOEIC2	1	0				2					G4	
ライティング 1	1	•					2				G4	
ライティング 2	1	•						2			G4	
科学技術英語 1	1	•					2				* G4	
科学技術英語 2	1	•						2			* G4	
オーラルイングリッシュ 1	1	0	2								G4	
オーラルイングリッシュ 2	1	0		2							G4	
オーラルイングリッシュ 3	1	•			2						G4	
オーラルイングリッシュ 4	1	•				2					G4	
アカデミックリーディング 1	1	\circ			2						G4	
アカデミックリーディング 2	1	0				2					G4	
海外語学研修(英語)	2	0	_	_	_	_	_	_	_	_	G4	
[外国語科目](第二)												
ドイツ語総合 1	1	0	2								B1	
ドイツ語総合2	1	\circ		2							B1	
ドイツ語総合3	1	\circ			2						B1	
ドイツ語総合 4	1	\circ				2					B1	
フランス語総合 1	1	0	2								B1	
フランス語総合 2	1	0		2							B1	
フランス語総合3	1	0			2						B1	
フランス語総合 4	1	\circ				2					B1	
中国語総合1	1	0	2								B1	
中国語総合2	1	0		2							B1	
中国語総合3	1	0			2						B1	
中国語総合4	1	0				2					B1	
海外語学研修(中国語)	2	0	_		_				_		B1	
韓国語総合1	1	0	2								B1	
韓国語総合2	1	0		2							B1	
韓国語総合3	1	0			2						B1	
韓国語総合4	1	0				2					B1	
海外語学研修(韓国語)	2	0	_	_	_		_		_	—	B1	
ロシア語 1	1	Δ	2									
ロシア語 2	1	Δ		2								

注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。

^{2.} 選択必修科目は、「ライティング1」「ライティング2」「科学技術英語1」「科学技術英語2」の4科目から1単位、「オーラルイングリッシュ3」「オーラルイングリッシュ4」の2科目から1単位を修得のこと。

^{3. 4}年進級時に第二外国語科目群から2単位以上修得していなければならない。

情報学科 (基礎科目、専門科目)科目表

【情報システムコース】 ◎印は必修科目、●印は選択必修科目、○印は選択科目、△印は自由選択科目を示す。 履修学年、期別、セメスターと1週当たりの授業時間数 履 単 必修、 1学年 2学年 3学年 修 授 業 科 目 位 選択の 備 考 状 前期 後期 前期 後期 前期後期 前期 後期 数 別 況 2 3 4 5 6 7 8 [基礎科目] 3 基礎物理学および演習 4 **※**1, C2 3 物理学および演習 4 **※**1, C2 物理学概論および演習 I 3 **※**2, C2 4 3 **※**2, 物理学概論および演習Ⅱ 4 C2基礎化学および演習 3 C2 4 2 化学 2 C2 基礎生物学 2 2 C2 生物学 2 C2 2 微分積分学 I 2 0 2 C1 C1 微分積分学Ⅱ 2 (0) 2 2 線形代数学 I 0 2 С1 2 線形代数学Ⅱ 2 C1 0 \bigcirc 情報処理実習I 1 [2] [2] D3 情報処理実習Ⅱ 1 \bigcirc [2] [2] D3 D3 1 [2] 情報処理演習 \bigcirc [2] インターンシップ 2 \bigcirc _ _ В2 社会奉仕実習 1 В2 情報システム基礎 2 4 Δ 情報システム応用 2 Δ 4 [専門科目] 情報実習 I 2 0 4 D4 コンピュータ基礎 I 2 \bigcirc 2 D1, D3 情報実習Ⅱ 2 0 4 D3 D1, コンピュータ基礎Ⅱ 2 0 2 D3 2 オブジェクト指向設計 0 2 E1 プログラミング実習 I 3 (0) 6 D3 情報数学 2 \bigcirc 2 С3 確率統計 I 2 0 2 C4 ネットワーク技術 I 2 0 2 D2 データ構造とアルゴリズム I 2 0 2 D3 数值計算法 2 \bigcirc 2 С3 2 論理回路 \bigcirc 2 С3 プログラミング実習Ⅱ E2 3 0 6 コンピュータアーキテクチャ 2 \bigcirc 2 D1 オペレーティングシステム 2 0 2 D1 C4 確率統計Ⅱ 2 \bigcirc 2 ネットワーク技術Ⅱ 2 2 D2 \bigcirc データ構造とアルゴリズムⅡ 2 2 D3 \bigcirc 言語理論とオートマトン С3 9 2

注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す、6は1週に3時限(270分)を示す。

^{2.[]:}いずれかのセメスターで開講される。

^{3.} 一: は履修の対象となるセメスターを示す。

^{4. ※1}の科目を履修登録すると以降は※2の科目を履修できない。

^{5. ※2}の科目を履修登録すると以降は※1の科目を履修できない。

^{6. ※1}と※2の科目はプレイスメントテストによるクラス分けを行う。

◎印は必修科目、▲▼◆■印はそれぞれF1,F2,F3,B1科目群に属する選択必修科目、○印は 選択科目、○印は自由選択科目を示す。

【情報システムコース】

【情報システムコース】	選択	科目、△	即は自	由選択	科目を	示す。							
			履修	学年、	期別、セ	ニメスター	-と1週	当たりの	授業時	間数			履
授業科目	単位	必修、 選択の	1学	年	2学	年	3学	年	4学	年		備考	修
		選択の	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		1佣 45	状
	350		1	2	3	4	5	6	7	8			況
数理論理学	2	\circ				2					С3		
情報システムプロジェクトI	2	0					4				E1,	E2	
暗号と情報セキュリティ	2	0						2			D2		
データベース論 I	2	A					2				F1		
エージェント工学	2	•					2				F2		
自然言語処理	2	•					2				F2		
画像処理	2	•					2				F3		
パターン認識	2	•					2				F3		
数理計画法	2	\circ					2				C1,	E1	
情報理論	2	0					2				C4		
コンパイラ	2	0					2				D1		
プログラミング言語学	2	0					2				D3		
情報システムプロジェクトⅡ	2	0						4			E1-	3, G1-3	
卒業研究ゼミナール	1	0						2			A2,	G2	
データベース論Ⅱ	2							2			F1		
人工知能	2	•					2				F2		
コンピュータグラフィックス	2	•						2			F3		
計算論	2	\circ						2			С3		
リアルタイムシステム	2	\circ						2			D1		
分散システム	2	\circ						2			D2		
符号理論	2	\circ						2			D2		
ソフトウエアプロセス	2	\circ					2				E1,	E3	
情報と社会	2							2			В1		
情報と職業	2								2		В1		
卒業研究	8	0							_	_	A2,	G1, G2	
教科教育演習	1	\circ			2						В2,	集中講義	
ネットワーク演習I	2	\triangle					[4]	[4]			*1		
ネットワーク演習Ⅱ	2	Δ					[4]	[4]			*1,	集中講義	
ネットワーク演習Ⅲ	2	Δ					[4]	[4]			*1		
機械工学 I	2	\triangle											
機械工学Ⅱ	2	\triangle											
電気工学 I	2	\triangle											
電気工学Ⅱ	2	\triangle											
木材加工	4	\triangle											
金属加工	4	\triangle											
機械工学実験	1	\triangle											
電気工学実験	1	\triangle											
園芸学 (実習含む)	4	Δ											
職業指導	4	Δ											
エンジニアリングデザイン実習	12	Δ											
プロジェクトマネージメント実習	12	\triangle											

- 注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。
 - 2. 一:は履修の対象となるセメスターを示す。
 - 3. []:はいずれかのセメスターで開講される。
 - 4. 本コース以外の科目を履修し単位を取得した場合は、最大12単位までを専門選択科目の進級・卒業所要単位として認める。
 - 5. *1のネットワーク演習I、ネットワーク演習II、ネットワーク演習IIIの受講に関しては受講資格が必要。受講資格の詳細は別途案内する。
 - 6. 集中講義の実施時期については掲示する。
 - 7. 「教科教育演習」は、一度単位を取得した学生の聴講を認める。(成績は変更できません)

平成30年度入学

◎印は必修科目、●印は選択必修科目)、▲▼印はそれぞれa,b科目群に属する選択必修科目、○印は選択科目、△印は自由選択科目を示す。

【情報メディアコース】		は必修件 ○印は選							₹la,	D科日科	#に属する選択必何	
						アメスター			授業時	間数		履
校 米 切 口	単位	必修、	1学	年	2学	年	3学	年	4学	年	/# *	修
授業科目	位数	選択の 別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	備考	状
	<i></i>		1	2	3	4	5	6	7	8		況
〔基礎科目〕												
基礎物理学および演習	3		4								※ 1	
物理学および演習	3			4							※ 1	
物理学概論および演習I	3		4								※ 2	
物理学概論および演習Ⅱ	3			4							※ 2	
基礎化学および演習	3	•	4									
化学	2	•		2								
基礎生物学	2	•	2									
生物学	2			2								
微分積分学 I	2	0	2									
微分積分学Ⅱ	2	0		2								
線形代数学 I	2	0	2									
線形代数学Ⅱ	2	0		2								Ь_
情報処理実習 I	1	0	[2]	[2]								
情報処理実習Ⅱ	1	0		[2]	[2]							
情報処理演習	1	0			[2]	[2]						
インターンシップ	2	0	_	_	_	_	_	_	_	_		
社会奉仕実習	1	0	_	_	_	_	_	_	_	_		
情報システム基礎	2	\triangle	4									
情報システム応用	2	\triangle		4								
〔専門科目〕												
情報実習I	2	0	4									
コンピュータ基礎I	2	0	2									
情報実習Ⅱ	2	0		4								
コンピュータ基礎Ⅱ	2	0		2								
オブジェクト指向設計	2	0		2								
プログラミング実習 I	3	0			6							
情報数学	2	0			2							
確率統計I	2	0			2							
ネットワーク技術 I	2	0			2							<u></u>
データ構造とアルゴリズム I	2	0			2							
数値計算法	2	A			2						а	
コミュニケーション論	2	•			2						b	
プログラミング実習Ⅱ	3	0				6						
確率統計Ⅱ	2	0				2						
数理論理学	2	A				2					а	
言語理論とオートマトン	2	•			2						b	
ネットワーク技術Ⅱ	2	0				2						<u></u>
データ構造とアルゴリズムⅡ	2	0				2						
認知科学	2	0				2						
画像システム	2	0				2						
ディジタル信号処理	2	0			2							

- 注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。
 - 2. []:はいずれかのセメスターで開講される。
 - 3. 一: は履修の対象となるセメスターを示す。
 - 4. ※1の科目を履修登録すると以降は※2の科目を履修できない。
 - 5. ※2の科目を履修登録すると以降は※1の科目を履修できない。
 - 6. ※1と※2の科目はプレイスメントテストによるクラス分けを行う。

平成30年度入学

【情報メディアコース】

◎印は必修科目、▲▼◆印はそれぞれa,b,c科目群に属する選択必修科目、○印は選択科目、 △印は自由選択科目を示す。

		14日田歴	が付日を示り。 履修学年、期別、セメスターと1週当たりの授業時間数									
	単	必修、	1学年 2学年				年		生年	1	履修	
授業科目	位	選択の	前期		前期		前期		前期		備考	状
	数	別	1	2	3	4	5	6	7	8		況
	2	0	_			1	4		·			
暗号と情報セキュリティ	2	0						2				
パターン認識	2	0					2					
数理計画法	2	A					2				а	
自然言語処理	2	▼					2				b	
画像認識	2	♦					2				С	
情報理論	2	0					2					
通信工学	2	0					2					
エージェント工学	2	0					2					
Webアプリケーション	2	0					2					
知能ロボット	2	0					2					
情報メディアプロジェクトⅡ	2	0						4				
卒業研究ゼミナール	1	0						2				
音声認識	2	•						2			С	
機械学習	2	•						2			С	
色彩工学	2	\circ					2					
HCI	2	\circ						2				
人工知能	2	0					2					
感性工学	2	0						2				
コンピュータグラフィックス	2	0						2				
センサシステム	2	0						2				
社会心理学	2	0						2				
情報と社会	2	0						2				
情報と職業	2	0							2			
卒業研究	8	0							_	_		
教科教育演習	1	0			2						集中講義	
機械工学I	2	Δ										
機械工学Ⅱ	2	Δ										
電気工学I	2	Δ										
電気工学Ⅱ	2	Δ										
木材加工	4	Δ										
金属加工	4	Δ										
機械工学実験	1	Δ										
電気工学実験	1	Δ										
園芸学(実習含む)	4	Δ										
職業指導	4	Δ										
エンジニアリングデザイン実習	12	Δ										
プロジェクトマネージメント実習	12	\triangle										

- 注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。
 - 2. 一: は履修の対象となるセメスターを示す。
 - 3. []:はいずれかのセメスターで開講される。
 - 4. 本コース以外の科目を履修し単位を取得した場合は、最大12単位までを専門選択科目の進級・卒業所要単位として認める。
 - 5. 集中講義の実施時期については掲示する。
 - 6. 「教科教育演習」は、一度単位を取得した学生の聴講を認める。(成績は変更できません)

学部共通 (共通教養科目)科目表

[]:いずれかのセメスターで開講される。 ():いずれかのセメスターで受講できる。

			():いずれかのセメスターで受講できる 履修学年、期別、セメスター									
	授業科目	単 位	1	学年	2	学年	3等	华年				
	2 -2/		前期	後期	前期	後期	前期	後期	備考			
			1	2	3	4	5	6				
	自校学習	1	•						B1			
	人権と社会1	2			(●)	(●)			B1			
	人権と社会2	2				•			B1			
人間	暮らしのなかの憲法	2			(●)	[●]			В1			
性・	住みよい社会と福祉	2			(●)	[●]			В1			
社会性	現代社会と法	2	•						B1			
科	環境と社会	2	•						B1			
目群	資源とエネルギー	2			(0)	(0)			B2			
	技術と倫理	2		0					B2			
	企業倫理と知的財産	2						0	B2			
	教養特殊講義A	2	(0)	(0)								
地	国際経済と企業の国際化	2	•						В1			
域性	国際化と異文化理解	2		•					В1			
• 国	国際社会と日本	2	•						В1			
際性科	ビジネスモデルとマネジメント	2		•					B1			
目	メディアの読み方	2					•		В1			
群	教養特殊講義B	2	(0)	(0)								
	日本語の技法	2	•						B1			
課題	基礎ゼミ1	2	0						A1, G1,G2			
題設定	基礎ゼミ2	2		0					A1, G1,G2			
問問	キャリアデザイン	2					0		B2			
題解	科学的問題解決法	2					(0)	(0)	B2			
決科	プレゼンテーション技術	2						•	В1			
目群	情報処理基礎	1	0						D4			
	教養特殊講義C	2	(0)	(0)								
スポー	生涯スポーツ1	1	•						B1			
ツ ・ 表	生涯スポーツ2	1		•					B1			
表現活動科目	健康とスポーツの科学	2	•						B1			
科目群	食生活と健康	2	•						B1			
備		-		◎:必修	科目		-		-			
考				●:選択 ○:選択	必修科目							

学部共通 (外国語科目)科目表

◎は必修科目、●印は選択必修科目、○印は選択科目を示す。

	T		履修	●は必修科目、●印は選択必修科目、●印は選択科 履修学年、期別、セメスターと1週当たりの授業時間数								
	単	必修、		全年		全年		2年		全年	/++ 	履修
授業科目	位数	選択の		後期							備考	状
	女人	25.3	1	2	3	4	5	6	7	8		況
〔外国語科目〕(英語)				1								
英語演習 1	2	0	4								G4	
英語演習 2	2	0		4							G4	
TOEIC1	1	0			2						G4	
TOEIC2	1	(2					G4	
ライティング 1	1	•					2				G4	
ライティング 2	1	•						2			G4	
科学技術英語 1	1	•					2				* G4	
科学技術英語 2	1	•						2			* G4	
オーラルイングリッシュ 1	1	0	2								G4	
オーラルイングリッシュ 2	1	(2							G4	
オーラルイングリッシュ 3	1	•			2						G4	
オーラルイングリッシュ 4	1	•				2					G4	
アカデミックリーディング 1	1	\circ			2						G4	
アカデミックリーディング 2	1	0				2					G4	
海外語学研修(英語)	2	\circ	_	_	_	_	_	_	_	_	G4	
〔外国語科目〕(第二)				1								
ドイツ語総合 1	1	\circ	2								B1	
ドイツ語総合2	1	0		2							B1	
ドイツ語総合3	1	0			2						B1	
ドイツ語総合 4	1	0				2					B1	
フランス語総合 1	1	\circ	2								B1	
フランス語総合 2	1	0		2							B1	
フランス語総合3	1	0			2						B1	
フランス語総合4	1	0				2					B1	
中国語総合1	1	\circ	2								B1	
中国語総合 2	1	0		2							B1	
中国語総合3	1	0			2						B1	
中国語総合4	1	0				2					B1	
海外語学研修(中国語)	2	0	_	_	_	_	_	_	_	_	B1	
韓国語総合1	1	0	2								B1	
韓国語総合2	1	0		2							B1	
韓国語総合3	1	0			2						B1	
韓国語総合4	1	0				2					B1	
海外語学研修(韓国語)	2	0	<u> </u>	_	_	_	<u> </u>	_	l —	_	B1	
次 1				1				1		1		

注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。

^{2.} 選択必修科目は、「ライティング1」「ライティング2」「科学技術英語1」「科学技術英語2」の4科目から1単位、「オーラルイングリッシュ3」「オーラルイングリッシュ4」の2科目から1単位を修得のこと。

^{3. 4}年進級時に第二外国語科目群から2単位以上修得していなければならない。

平成29年度入学

情報学科 (基礎科目、専門科目)科目表

【情報システムコース】	(◎印は必	修科目	、●印	は選択	必修科	目、OF	印は選打	尺科目、	△印筒	は自由選択科目を	示す。
	227	T., .,	履修	学年、	期別、セ	:メスター	-と1週	当たりの	授業時	間数		履
授業科目	単 位	必修、 選択の	1学	年	2学	年	3学	年	4学	年	備考	修
12 来 行 日		別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	TURE 45	状
	221		1	2	3	4	5	6	7	8		況
〔基礎科目〕												
基礎物理学および演習	3		4								※ 1, C2	
物理学および演習	3	•		4							※ 1, C2	
物理学概論および演習 I	3	•	4								※ 2, C2	
物理学概論および演習Ⅱ	3	•		4							※ 2, C2	
基礎化学および演習	3	•	4								C2	
化学	2	•		2							C2	
基礎生物学	2	•	2								C2	
生物学	2	•		2							C2	
微分積分学 I	2	0	2								C1	
微分積分学Ⅱ	2	0		2							C1	
線形代数学 I	2	0	2								C1	
線形代数学Ⅱ	2	0		2							C1	
情報処理実習 I	1	\circ	[2]	[2]							D3	
情報処理実習Ⅱ	1	0		[2]	[2]						D3	
情報処理演習	1	0			[2]	[2]					D3	
インターンシップ	2	0	_	_	_	_	_	_	_	_	B2	
社会奉仕実習	1	0	_		_	_	_	_	_	_	B2	
情報システム基礎	2	\triangle	4									
情報システム応用	2	\triangle		4								
〔専門科目〕		-										
情報実習 I	2	0	4								D4	
コンピュータ基礎 I	2	0	2								D1, D3	
情報実習Ⅱ	2	0		4							D3	
コンピュータ基礎Ⅱ	2	0		2							D1, D3	
オブジェクト指向設計	2	0		2							E1	
プログラミング実習 I	3	0			6						D3	
情報数学	2	0			2						C3	
確率統計I	2	0			2						C4	
ネットワーク技術 I	2	0			2						D2	
データ構造とアルゴリズムI	2	0			2						D3	
数値計算法	2	0			2						C3	
論理回路	2	0			2						C3	
プログラミング実習Ⅱ	3	0				6					E2	
コンピュータアーキテクチャ	2	0				2					D1	
オペレーティングシステム	2	0				2					D1	
確率統計Ⅱ	2	0				2					C4	
ネットワーク技術Ⅱ	2	0				2					D2	
データ構造とアルゴリズムⅡ	2	0				2					D3	
言語理論とオートマトン	2	0			2						C3	

- 注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す、6は1週に3時限(270分)を示す。
 - 2.[]:いずれかのセメスターで開講される。
 - 3. 一: は履修の対象となるセメスターを示す。
 - 4. ※1の科目を履修登録すると以降は※2の科目を履修できない。
 - 5. ※2の科目を履修登録すると以降は※1の科目を履修できない。
 - 6. ※1と※2の科目はプレイスメントテストによるクラス分けを行う。

◎印は必修科目、▲▼◆■印はそれぞれF1, F2, F3, B1科目群に属する選択必修科目、○印は 選択科目、△印は自由選択科目を示す 【情報システムコース】 履修学年、期別、セメスターと1週当たりの授業時間数 必修、 1学年 2学年 3学年 4学年 修 考 授 業 科 目 位 選択の 備 状 前期後期 前期後期 前期後期 前期後期 数 別 況 3 5 数理論理学 2 \bigcirc 2 СЗ 2 情報システムプロジェクトI 0 4 E1, E2 暗号と情報セキュリティ 2 0 2 D2 データベース論 I 2 F1 2 エージェント工学 V 2 F2 自然言語処理 2 V 2 F2 2 画像処理 2 F3 パターン認識 2 F3 2 • 2 2 数理計画法 \bigcirc C1, E1 2 情報理論 2 C4 \bigcirc コンパイラ 2 D1 \bigcirc 2 プログラミング言語学 2 \bigcirc 2 D3 情報システムプロジェクトⅡ 2 0 4 E1-3, G1-3 卒業研究ゼミナール 1 0 2 A2, G2 データベース論Ⅱ 2 2 F1 人工知能 2 V 2 F2 コンピュータグラフィックス 2 • 2 F3 2 計算論 \bigcirc 2 СЗ リアルタイムシステム 2 D1 \bigcirc 2 2 分散システム \bigcirc 2 D2 2 符号理論 2 D2 \bigcirc ソフトウエアプロセス 2 \bigcirc 2 E1, E3 情報と社会 2 2 В1 情報と職業 2 В1 卒業研究 8 (0) A2, G1, G2 教科教育演習 1 B2, 集中講義 \bigcirc 2 ネットワーク演習I 2 [4][4] *1 Δ ネットワーク演習Ⅱ 2 \triangle [4] [4] *1,集中講義 ネットワーク演習Ⅲ 2 [4] [4] *1 \triangle 機械工学I 2 Δ 機械工学Ⅱ 2 \triangle 電気工学 I 2 \triangle 2 電気工学Ⅱ \triangle 木材加工 4 \triangle 金属加工 4 \wedge

4 注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。

1

1

4

Δ

Δ

Δ

2. 一: は履修の対象となるセメスターを示す。

機械工学実験

電気工学実験

職業指導

園芸学(実習含む)

- 3. []:はいずれかのセメスターで開講される。
- 4. 本コース以外の科目を履修し単位を取得した場合は、最大12単位までを専門選択科目の進級・卒業所要単位として認める。
- 5. *1のネットワーク演習I、ネットワーク演習II、ネットワーク演習IIIの受講に関しては受講資格が必要。受講資格の詳細は別途案内する。
- 6. 集中講義の実施時期については掲示する。
- 7. 「教科教育演習」は、一度単位を取得した学生の聴講を認める。(成績は変更できません)

平成29年度入学

◎印は必修科目、●印は選択必修科目)、▲▼印はそれぞれa,b科目群に属する選択必修科目、○印は選択科目、△印は自由選択科目を示す。

【情報メディアコース】			目、●印は選択必修科目)、▲▼印はそれぞれa,b科目群に属する選択必修: 択科目、△印は自由選択科目を示す。									修科
		必修、 選択の			期別、も				授業時	間数		履
極 紫 刹 日	単位		1学年		2学年		3学	年	4学	年	備考	修
授業科目	数数		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	備考	状
	,,,,		1	2	3	4	5	6	7	8		況
〔基礎科目〕												
基礎物理学および演習	3	•	4								※ 1	
物理学および演習	3			4							※ 1	
物理学概論および演習 I	3		4								※ 2	
物理学概論および演習Ⅱ	3			4							※ 2	
基礎化学および演習	3		4									
化学	2			2								
基礎生物学	2		2									
生物学	2			2								
微分積分学 I	2	0	2									
微分積分学Ⅱ	2	0		2								
線形代数学 I	2	0	2									
線形代数学Ⅱ	2	0		2								
情報処理実習 I	1	0	[2]	[2]								
情報処理実習Ⅱ	1	0		[2]	[2]							
情報処理演習	1	0			[2]	[2]						
インターンシップ	2	0	_	_	_	_	_	_	_	_		
社会奉仕実習	1	0	_	_	_	_	_	_	_	_		
情報システム基礎	2	\triangle	4									
情報システム応用	2	\triangle		4								
〔専門科目〕												
情報実習I	2	0	4									
コンピュータ基礎 I	2	0	2									
情報実習Ⅱ	2	0		4								
コンピュータ基礎Ⅱ	2	0		2								
オブジェクト指向設計	2	0		2								
プログラミング実習 I	3	0			6							
情報数学	2	0			2							
確率統計 I	2	0			2							
ネットワーク技術 I	2	0			2						1	
データ構造とアルゴリズムI	2	0			2						1	
数値計算法	2	A			2						а	
コミュニケーション論	2	▼			2						b	
プログラミング実習Ⅱ	3	0				6					1	
確率統計Ⅱ	2	0				2					1	
数理論理学	2	A				2					а	
言語理論とオートマトン	2	▼			2						b	
ネットワーク技術Ⅱ	2	0				2						
データ構造とアルゴリズムⅡ	2	0				2						
認知科学	2	0				2						
画像システム	2	0				2						
ディジタル信号処理	2	0			2	_						
, 1 : 7 : 1E 7/0-4		$\overline{}$	<u> </u>								I	1

- 注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。
 - 2.[]:はいずれかのセメスターで開講される。
 - 3. 一: は履修の対象となるセメスターを示す。
 - 4. ※1の科目を履修登録すると以降は※2の科目を履修できない。
 - 5. ※2の科目を履修登録すると以降は※1の科目を履修できない。
 - 6. ※1と※2の科目はプレイスメントテストによるクラス分けを行う。

平成29年度入学

【情報メディアコース】

◎印は必修科目、▲▼◆印はそれぞれa,b,c科目群に属する選択必修科目、○印は選択科目、 △印は自由選択科目を示す。

【情報メティアコース】	\(\triangle \triangle \tr	は自由選										
	27.4			学年、	間数		履					
授業科目	単位	必修、 選択の		年		年		年		年	備考	修
汉 未 们 口	数	別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	VHI 75	状況
			1	2	3	4	5	6	7	8		亿
情報メディアプロジェクトI	2	0					4					
暗号と情報セキュリティ	2	0						2				
パターン認識	2	0					2					
数理計画法	2						2				а	
自然言語処理	2	▼					2				b	
画像認識	2	•					2				С	
情報理論	2	\circ					2					
通信工学	2	\circ					2					
エージェント工学	2	0					2					
Webアプリケーション	2	0					2					
知能ロボット	2	0					2					
情報メディアプロジェクトⅡ	2	0						4				
卒業研究ゼミナール	1	0						2				
音声認識	2	•						2			С	
機械学習	2	•						2			С	
色彩工学	2	0					2					
HCI	2	0						2				
人工知能	2	0					2					
感性工学	2	0						2				
コンピュータグラフィックス	2	0						2				
センサシステム	2	0						2				
社会心理学	2	0						2				
情報と社会	2	0						2				
情報と職業	2	0							2			
卒業研究	8	0							_	_		
教科教育演習	1	0			2						集中講義	
機械工学 I	2	\triangle										
機械工学Ⅱ	2	Δ									1	
電気工学 I	2	Δ										
電気工学Ⅱ	2	Δ										
木材加工	4	Δ										
金属加工	4	Δ									1	
機械工学実験	1	Δ									1	
電気工学実験	1	Δ										
園芸学 (実習含む)	4	Δ										
職業指導	4	Δ										

- 注 1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。
 - 2. 一: は履修の対象となるセメスターを示す。
 - 3.[]:はいずれかのセメスターで開講される。
 - 4. 本コース以外の科目を履修し単位を取得した場合は、最大12単位までを専門選択科目の進級・卒業所要単位として認める。
 - 5. 集中講義の実施時期については掲示する。
 - 6. 「教科教育演習」は、一度単位を取得した学生の聴講を認める。(成績は変更できません)

基本情報技術者試験等の合格証書による プログラミング系基礎科目の単位認定制度

情報処理推進機構(IPA)が実施する下記の試験に合格し、所定の申請を行った場合、プログラミング系基礎科目(情報処理実習Ⅰ、情報処理実習Ⅱ、情報処理演習)の単位を認定する。

- 基本情報技術者試験
- 応用情報技術者試験

本申請に関する内容は以下のとおりである。

- ■申請先 理工学部事務部
- ■申請期間 前期および後期の定期試験期間中
- ■必要書類 基本情報技術者試験あるいは応用情報技術者試験の合格証書 学生証
- ■注意事項 ・本制度により単位認定された科目を履修しても、その単位を 取得することはできない。
 - ・ 合格証書の対象人物と学生証の対象人物は同一でなければならない。
 - ・入学前に取得した合格証書でも単位認定を行う。
 - ・本制度の施行は 2020 年 4 月から 2021 年 3 月までの 1 年間限り とする。

近畿大学の「生涯スポーツ1・2」について

本学にて開講される共通教養科目(スポーツ・表現活動科目群)のうち、「生涯スポーツ1」と「生涯スポーツ2」の概要を示します。以下をよく読み、履修してください。なお関連科目として、一部の学部で「健康とスポーツの科学」「心と体の健康」が開講されています。シラバスを参照してください。

「生涯スポーツ1」「生涯スポーツ2」(実習科目:1単位)

1. 教育のねらいと成績評価

1.1 教育目的

【 人間力を磨き、心身の健康増進を図る KINDAI 生涯スポーツ 】

近畿大学の「生涯スポーツ1・2」は、本学が掲げる「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」という教育理念を実現するため、その基礎となる身体を基盤とした多様なスポーツ・運動への高度な取り組みを通して、人間力 a)を磨くとともに、生活習慣病の予防や心身の健康 b)の維持・増進に関する確かな科学的・専門的な知識と技能を獲得することを目的とする。このような「生涯スポーツ」での学びを通じ、現代社会が直面する諸問題の解決に貢献できる人材、持続的な幸福感 o)を増大できる人材を育成する。

■キーワードの解説

a) 人間力

自らを律しつつ(意欲、忍耐力、成功を追及する力等の自己制御的要素)、他者とともに協調しながら、他者を 思いやる心や振る舞い(コミュニケーションスキル、リーダーシップ等の社会・対人関係力的要素)や感動する 心や専門的知識等を有することなどを言います。

b) 心身の健康

目標を持ちいきいきと生きている状態を指し、心の健康状態を含めた健康を言います。

c) 持続的な幸福感

以下の5つの側面【 ①「ポジティブ感情(幸福感や人生の満足感等の気持ちの良さ)」②「物事への積極的関わり(没我)」③「関係性(他者との良い関係)」④「人生の意味・意義(価値、有益性)」⑤「達成感(成功)」】を言います。いずれもスポーツ・運動との関わりが強いと考えられます。これらを持続的幸福とも言います。

■教育目的の解説

「生涯スポーツ」の学びについて

本科目は、近畿大学の教育の目的を達成するための基礎に位置づけられます。とくに本科目は、人間力を磨くことおよび健康の維持・増進に関する確かな科学的知識と技能を獲得することを目的としています。「生涯スポーツ」の学びを通じ、様々な状況で必要となる問題解決能力(他者のために役立つ力)が培われ、加えて持続的な幸福感(ずっと続く豊かな幸せ)を獲得するための知識や技能(自己を支えるために役立つ力)が養成されます。

「生涯スポーツ」の授業内容について

本科目の授業内容は、身体を基盤とした多様なスポーツ・運動の実践であるため様々な重要な価値があります。また、高等学校での保健体育授業を発展した学びであることから、高度な取り組みと捉えられます。

1.2 教育目標

【 KINDAI 生涯スポーツの4つの教育目標 】

1) スポーツや健康・体力に関する科学的理解

実践するスポーツや運動に関する科学的理解および生活習慣の予防や心身の健康の維持・増進に関わる健康関連体力について科学的に理解する能力を身に付けます。

2) 運動技能の習得

自らの運動技能や運動技能を向上させる方法を把握しながら、楽しく生涯にわたり取り組みを 続けられるスポーツスキル、運動能力を身に付けます。

3) 仲間との協同的・支援的な関わりの強化

さまざまな考えを持つ仲間の存在を認識し、仲間と共に協同的・支援的にスポーツや運動を実 践できる能力を身に付けます。

4) 自律的実践力の向上

運動技能を向上させるための挑戦的目標を設定し、困難な課題や状況に耐えながら、自律的、 意欲的に乗り越えようとする能力を身に付けます。

1.3 学修形態・内容

1) 学修形態

上記の教育目的および教育目標を達成するため、「生涯スポーツ1」(春セメスター開講)では、 基礎・応用的な学びに重点が置かれ、また「生涯スポーツ2」(秋セメスター開講)は応用・発展 的な学びに重点が置かれ授業が展開されます。

2) 学修内容

「生涯スポーツ1・2」は、一つの時限に複数の担当者が、それぞれ異なったスポーツ・運動種目により授業を展開します。スポーツ種目とその学修内容については、各担当教員のシラバスを参照してください。

また、「生涯スポーツ1・2」とも、授業時に2回または3回にわたってフィットネスチェックを実施します。フィットネスチェックとは、各自の健康状態に関わる心身状態(日常生活における心身の健康に関わるチェック、形態・体格)、体力・運動能力の測定です。フィットネスチェックでの測定結果は、受講生により入力と出力がなされ、測定結果を参照しレポートを作成します。

(注) 教員免許状の取得を希望する場合、「生涯スポーツ1」「生涯スポーツ2」は必修科目です。

1.4 成績評価

成績評価は、前述の教育目標に対応する以下の4つの評価観点(各25点、計100点)の到達度によって行われます。

- ・スポーツや健康・体力に関する科学的理解度
- 運動技能の習得度
- ・仲間との協同的・支援的な関わり度
- 自律的実践度

2. 履修方法について

2.1 履修登録手続き

1) クラス分け(第1回目授業にて)

- (1) 受講生の各種目によるクラス分けは、記念会館において、「生涯スポーツ1」は4月の第 1回目の授業、「生涯スポーツ2」は9月の第1回目の授業にて行います。
- (2) 受講希望者は、記念会館(奈良キャンパスは 203 教室)に集合すること。事前に「生涯スポーツ 1 ・ 2 」のシラバスを大学ホームページ(https://www.kindai.ac.jp/campus-life/guide/lifelong-sport/curriculum/#sp1)より参照の上、各担当教員の説明を聞き、第 1 希望から第 3 希望までの希望するクラスを決定しておきます。
- (3) 各クラスには、円滑な授業運営と安全確保のために定員(20~40名)を設けています。
- (4) 各クラスにおいて希望者が多数の場合は各担当教員が抽選等を行います。

2) 受講許可証の発行

- (1) 受講クラス決定後、受講許可証を発行します。
- (2) 受講許可証は大切に保管してください。
- (3) 受講許可証をもとに各自で履修登録(web 登録)を行います。曜日・時限・担当教員名を確認し、登録ミスがないよう細心の注意を払ってください。
- (4) 受講の許可なく履修登録をした学生の受講は認められません。

3) クラス分け(第1回目授業にて)を欠席した場合

- (1) 諸事情により第1回目授業を欠席した学生は、履修相談窓口にて受け付けます。受講クラスは、定員に達していないクラスからの選択になります。
- (2) 東大阪キャンパスの履修相談窓口は、以下の日程および場所で行います。奈良キャンパスは別途 UNIVERSAL PASSPORT (近大 UNIPA) および掲示板にて周知します。

期 日:授業開始日の翌日から履修登録期間最終日(ただし、土日祝は除く)

時 間:午前11時~午後5時(水曜日は午後3時まで)

場 所:生涯スポーツ担当教員控室

- (注) 履修相談窓口の日程は変更することがあります。UNIVERSAL PASSPORT (近大 UNIPA) および掲示板を確認してください。
- (注) 履修相談窓口にて、受講クラスを決定し、受講許可証受領後、各自で履修登録 (web 登録) を行うこと。
- (3) 履修登録を間違えた場合、履修登録期間内に各自、修正してください。
- (4) 決定した受講クラスの変更は、特別な理由がない限り認められません。
- (5) <u>上記(1)~(4)の手続きを怠ると、各自で web 登録を行っても「受講許可証」は発行されないので、</u>受講は認められません。

2.2 履修にあたっての注意

- 1) 授業場所は、大学 HP 内の「時間割一覧およびシラバス」に記載しています。雨天など天候変化、グラウンド状態不良等の理由により、授業場所を変更することがあります。授業場所変更については、授業前に、生涯スポーツ用の掲示板、記念会館ロビーの掲示板(奈良キャンパスは各学科の掲示板)に掲示されますので、事前に確認をしてください。
- 2) 実技・実習等の服装はトレーニングウエア及び運動靴を使用すること。<u>授業に適した服装でない場合、原則として見学</u>とします。眼鏡、時計、指輪、携帯電話など、破損しやすい物は、危険防止の見地からも、授業中できる限り携帯しないでください。万一破損があっても保障することはできません。外傷などの身体的事故についての注意、万一の場合の処置については「履修上の安全対策」の項を熟読すること。

- 3) 屋内での授業には、必ず館内シューズを持参すること(KEEP で使用する館内シューズは担当 教員の指示に従う)。また、グラウンド、テニスコートおよび人工芝グラウンドでは担当教員が 認めた運動靴を使用してください。
- 4) 各クラスの更衣場所については、担当教員の指示に従ってください。
- 5) 授業に関する不明点は、生涯スポーツ担当教員控室(奈良キャンパスは担当教員) に問い合わせてください。
- 6) 貴重品の管理は、各担当教員の指示に従ってください。
- 7) 実技科目である特性上、<u>欠席日数が4回以上もしくは、それに相応する遅刻等がある場合は</u>「不可」とします。
- 8) 再試験は、原則、実施しない。ただし、事情等を勘案し実施する場合、対象となるのは、欠席 回数が4回未満の者とします。

2.3 履修上の安全対策

実習科目における安全管理は、日常生活の自己管理からです。自己管理されたリズムある日常 生活は、最優先されるべき実技・実習上の安全対策です。

しかし、実習中には、避けることのできない不可効力的な事故も発生します。多くのケースは、 もう少し注意しておけば、あるいはもう少し準備・配慮しておけばといったことがしばしば見受 けられます。不摂生な生活、睡眠不足などによる注意不足・散漫などが起因である場合が多いで す。事故は、自分だけでなく他の受講生に対しても多大な迷惑をかけることになります。

日常生活の中での自己管理も踏まえ、実習の際に以下の事に注意してください。

1) 自己管理について

- (1) 暴飲、暴食をしない (2) 十分な睡眠を取る
- (3) 朝食を摂る
- (4) 規則正しい生活を送る

2) 用具について

- (1) 使用用具の取り扱いは、担当教員の指示に従うこと
- (2) 各種目の用具の特殊性を熟知し、慎重に取り扱うこと

3) 活動中について

- (1) 担当教員の指導上の注意、助言を厳守すること
- (2) 各種目のルール、マナーを厳守すること
- (3) 感情的にならないこと
- (4) 心身の不調をきたした場合、すぐに担当教員に申し出ること

4) 事故の処置について

実習中に万一外傷、その他授業が継続できないような事故が発生した場合、以下のような要領で処置をします。

(1) 事故発生時

担当教員に申し出て指示を受けること。原則として次のように処置をします。東大阪キャンパスではメディカルサポートセンター (11 月ホール 3 階)、奈良キャンパスでは医務室で処置を受ける。

(2) 学外の医療機関で治療した場合

学生部学生課に届け出ること。その際、大学で扱う医療費給付制度等を確認すること。

参考:近畿大学学園学生健保共済会ホームページ(http://www.kindai-wellness.jp/) 近畿大学学園学生健保共済会発行「WELLNESS ガイドブック」

3. 履修にあたってのよくある Q&A

「生涯スポーツ1・2」の履修時に、様々な質問が寄せられます。以下の'履修にあたってのよくあるQ&A'を参考のうえ、履修してください。

く履修手続きについて>

Q:「生涯スポーツ1」を履修していませんが、「生涯スポーツ2」を履修できますか?

A:「生涯スポーツ2」だけでも、問題なく履修することができます。

Q:1回目の授業はガイダンスとクラス分けですが、どの曜日・時限でも受講できますか?

A: 所属する学科の時間割以外の曜日・時限では履修できません。自分の所属する学科の配当された時間割の中から受講希望の曜日・時限を必ず決めてください。

<授業について>

Q: 当日の朝、晴れるか雨になるか、天気がはっきりしない場合、どうしたら良いですか?

A: 朝は晴れていても、その後、降雨や降雪等となることもあります。このような場合は、晴天時と雨天時の両方の用意をしてください。

Q:スポーツウェアやスポーツシューズを忘れた場合、どうしたら良いですか?

A: スポーツウェアを着用しない運動は危険が伴い、衛生面からも問題があります。そのため、スポーツウェアやスポーツシューズを忘れた場合、原則として見学とします。授業前に担当教員に申し出てください。

Q:授業を一緒に受ける友だちがいません。授業中の活動に支障がありますか?

A: 複数の学部学科の学生と一緒に授業を受けます。新たな友だちと一緒に活動することも授業のメリットの1つです(他にもメリットは多くあります)。奈良キャンパスでは単一学科での開講です。

Q: ラケットやグローブ等のスポーツ用具を持っていない場合、どうしたら良いですか?

A: 必要なスポーツ用具は大学に備え、授業で使用できますので、安心して履修してください。

<成績評価について>

Q:何回の欠席で単位を取ることができなくなりますか?

A: 4回以上の授業を欠席すると単位認定はできません。

Q:スポーツ経験が無い場合は、単位の取得が難しいですか?

A: 未経験者であっても単位の取得は可能です。2ページに掲載の教育目標と成績評価の箇所を参照してください。

Q:卓球の全国大会に出場した経験があります。秀評価(90 点以上)をもらえますか?

A: 運動技能の習得状況のみで秀評価にはなりません。成績評価は、4つの評価観点に則って行います。 2ページに掲載の教育目標と成績評価の箇所を参照してください。

4年 442 情報と職業 437 437 438 438 438 438 536 情報と社会 暗号と情報セキュリティ プフガントーション技術 卒業研究セミナール 卒業研究 ゼミナー 3年 431 132 432 432 432 433 433 433 433 データベース論 1 自然言語処理 画像処理 パターン認識 プログラミング言語学 人工知識 ソフトウエアフロセス エージェント工学 科学技術英語1 数理計画法 情報理論 326 326 328 328 128 128 128 128 326 328 126 127 128 確率統計 II データ構造とアルゴリズム II ーラルイング リッシュ4 カデミックリーディング2 プログラミング実習エ ドイツ語総合4 フランス語総合4 中国語総合4 韓国語総合4 2年 321 322 321 321 122 122 122 123 123 123 123 121 122 123 323 323 323 323 確率統計 I データ構造とアルゴリズム I TOEIC1 オーラルイングリッシュ3 アカデミックリーディング1 ネットワーク技術 I 数値計算法 論理回路 言語理論とオートマトン プログラミング実習 I コミュニケーション論 ドイツ語総合3 フランス語総合3 中国語総合3 韓国語総合3 216 216 116 217 217 217 217 216 216 ビジネスモデルとマネジメント 英語演習2 オーラルイングリッシュ2 コンピュータ基礎 I オブジェクト指向設計 技術と倫理 国際化と異文化理解 ドイツ語総合2 フランス語総合2 中国語総合2 韓国語総合2 情報処理実習エ 情報学科・情報システムコース カリキュラムフロー 情報実習工 **中** 112 211 112 212 212 212 212 212 211 113 113 ΞΞ 213 基礎物理学および演習 物理学概論および演習 1 基礎化学および演習 基礎生物学 後分積分学 1 線形代数学 1 国際経済と企業の国際化 国際社会と日本 自校学習 現代社会と法 環境と社会 健康とスポーツの科学 食生活と健康 英語演習1 オーラルイングリッシュ1 コンピュータ基礎 I ドイツ語総合1 フランス語総合1 中国語総合1 韓国語総合1 情報処理実習] 青報処理基礎 情報実習I ポンプマ ポンツー 1.1 4.2) 1.2) 2.1) 2.2) 2.3) 3.2) 4.3)

4年 情報と職業 卒業研究 436 438 436 437 438 438 438 437 436 436 431 情報メディアプロジェクトII 情報と社会 暗号と情報セキュリティ プレガントーション技術 卒業研究ゼミナール 卒業研究セミナール 卒業研究 ゼミナー 科学技術英語2 3年 132 431 432 433 433 433 433 433 431 情報メディアプロジェクトI バターン認識 自然言語処理 通信工学 Webアブリケーショ 知能ロボット セ彩エゴ を モデューがエントエ学 科学技術英語1 数理計画法 情報理論 326 328 327 328 328 128 128 128 128 326 328 328 126 127 128 確率統計 II データ構造とアルゴリズム II 認知科学 TOELOS オーラルイングリッシュ4 アカデミックリーディング2 プログラミング実習エ ネットワーク技術 I 数理論理学 画像システム ディジタル信号処理 ドイツ語総合4 フランス語総合4 中国語総合4 韓国語総合4 率統計工 2年 321 321 122 122 122 123 123 123 123 321 322 121 122 123 321 321 322 322 確率統計 I データ構造とアルゴリズム I ネットワーク技術 I 数値計算法 言語理論とオートマトン TOEIC1 オーラルイングリッシュ3 アカデミックリーディング1 プログラミング実習 I コミュニケーション舗 ドイツ語総合3 フランス語総合3 中国語総合3 韓国語総合3 ≌率統計 I 216 116 216 216 217 217 217 217 216 216 ビジネスモデルとマネジメント 英語演習2 オーラルイングリッシュ2 技術と倫理 国際化と異文化理解 コンピュータ基礎 I オブジェクト指向設計 ドイツ語総合2 フランス語総合2 中国語総合2 韓国語総合2 情報処理実習Ⅱ 情報学科・情報メディアコース カリキュラムフロー 情報実習工 112 211 112 212 212 212 212 212 211 113 113 ΞΞ 213 基礎物理学および演習 物理学概論および演習 1 基礎化学および演習 基礎化学および演習 機分積分学 1 線形代数学 1 国際経済と企業の国際化 国際社会と日本 自校学習 現代社会と法 環境と社会 健康とスポーツの科学 食生活と健康 英語演習1 オーラルイングリッシュ1 コンピュータ基礎 I ドイツ語総合1 フランス語総合1 中国語総合1 韓国語総合1 情報処理実習I 日本語の技法 情報処理基礎 情報実習I ポンプマ ポンツー 4.2) 1.1) 1.2) 2.1) 2.2) 2.3) 3.1) 3.2) 4.3) 4.1)

基礎学力と専門の基礎科目のサポート

(対面・ZOOM併用)

理工学部の学生を対象に、「数学・物理・化学・生物」の学習サポートを行う**基礎サポ(学習支援室**)を開室します。 理工学部で大変重要とされる基礎科目を、講師が質問対応を中心に丁寧にサポートします。各科目の学習で分からないことなどが あれば、ぜひ活用してください。

●対象

理工学部の1年生・再履修者

●実施方法

対面指導&ZOOMのどちらにも対応

※ZOOMのミーティングID右の通りです。 (パスワードは共通)

インターネット接続環境は各自で準備して ください

●期間

[前期]2021年4月30日~2021年7月28日 月・火・水・木・金・土 開室

[後期]2021年9月16日~2022年1月20日

火・水・木 開室

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日						
時間帯		14:00~20:00 12:30~18:30 1										
場所												
担当講師	前田	前田 中田 藤岡 土井										
指導科目	物理・数学 化学・生物	物理・数学	物理・数学 化学	物理:	物理・数学							
ZOOM ミーティングID	890 0699 7127	882 5004 4786	835 4726 5957	891 9866 5812	825 1068 6261	880 5317 4200						
パスワード			kisos	apo21								
	・ミーティングに	・ミーティングに参加する際、 <u>名前の欄に正しい学籍番号と氏名を入力</u> してください。										
注意事項	・参加者が重なっ	・参加者が重なったときは、講師の指示に従い、時間をずらして入室し直してください。										
	・ミーティングが	途中で切れた場合	、すぐ繋ぎ直します	すので落ち着いてス	(室し直してくださ	い。						

●場所

理工学部31号館2F





●指導科目:数学・物理・化学・生物(高校課程)及び大学初修レベル

●指導内容:

• 未履修科目のフォロー

・工業高校出身者の数学フォロー

・レポート指導

懇切丁寧に 個別指導 します!

• 苦手科目、単元フォロー ・学生生活全般への相談 など。

質問事項に丁寧に 答えていただけた。

苦手を克服できた。



的確な指導をいただいたのと、接しや すい先生で気持ちが楽だった。



こちらが理解できるまで丁寧に時間を かけて説明してくれた。



●利用者の声(2020年度利用者アンケートより)

手順

1.ZOOMアプリをインストール 2.ZOOMに無料サインアップ(メールアドレスを登録)※以降の手続き中略

2.2.COOMに無格サインイン(ワグイン)
3.ZOOMにサインイン(ログイン)
4.「参加」をクリック
5.ミーティングIDと、学籍番号(正しく!)・氏名を入力
6.次の画面でパスワード「kisosapo21」を入力



中央図書館案内

学習・研究にあたっては、中央図書館(入口:旧大学本館 3 階)を大いに活用してください。中央図書館を利用する際に、是非とも知っておいてほしい項目を下記に記載します。

利用の詳細については、中央図書館ホームページまたは中央図書館の各カウンターでお尋ねください。

1.開館時間(中央図書館3~5階)

開講期: 8:45~22:00 閉講期: 9:00~18:00

試験期: 8:30~22:00 日曜•休日開館日: 10:00~18:00

※館内へは学生証を使って入館してください。

2.貸出冊数・期間

学生は1人につき10冊まで、1冊につき15日以内で借りることができます。

院生は1人につき20冊まで、1冊につき1カ月以内で借りることができます。

※貸出の際には学生証が必要です。

※長期休暇期間、前期・後期定期試験期間中は、貸出冊数・期間を変更することがあります。

3.指定図書について(中央図書館)

「授業計画(Syllabus)」で教員が参考文献に指定した図書を配架しております。講義・実験・実習や 定期試験等に活用してください。

4.各種講習会について(オンデマンドによる随時開催など)

図書館では、より良いレポート・論文を作成するための情報収集法や、各種データベース・電子資料の使い方などを講習会形式でお教えします。どうぞご利用ください。

講習会の内容や申込についての詳細は、中央図書館館内掲示板、または中央図書館ホームページなどでお知らせします。

中央図書館 URL

中央図書館 HP https://www.clib.kindai.ac.jp 蔵書検索システム(OPAC) https://opac.clib.kindai.ac.jp

中央図書館公式 Twitter 近畿大学中央図書館 @Kindai_Clib



中央図書館 HP

転コース

転コースとは同一学科内のコース変更です。情報学科には、情報システムコースから情報メディアコースへの変更、情報メディアコースから情報システムコースへの変更の2通りがあります。 試験により転コースの可否を判定します。転コース試験は、第4セメスターの2月以降に以下のA要領で選考を行います。

1 概要

数学(線形代数、微分積分)の試験を実施し、成績に応じて転コースの可否を判定します。

2 申込方法

申込方法については、近大UNIPA に掲示します。

3 試験実施日

試験実施日については、近大UNIPA に掲示します。

4 受験資格

2年生に在学中であること。合格した場合は3年進級時にコースを変更します。

カリキュラムガイドブック(2021)

2021.4 印刷発行

発行者 近畿大学理工学部

編 集 近畿大学理工学部 情報学科

所 在 地 7577-8502 東大阪市小若江 3-4-1

電話番号 (06)4307-3047

